

計測を受ける際の注意点

①セールナンバーの確認

受付とヤード(計測場)でそれぞれ必要項目を確認します。

(1)受付時の確認

エントリーシートに書いたセールナンバーと実際にレースで使用するセールナンバーが同じかを確認します。

(2)ヤードでの確認

レースで使用するセールのセールナンバーが出艇リスト上のセールナンバーと同じかどうかを確認します。

- ・セールを実際に展開させてセールナンバーを目視して確認します。
- ・艇体番号とそのセールナンバーが同じかどうかを確認します。異なる場合はセールナンバー変更届を提出します。

※チャーター艇を使用する選手で艇体番号とセールナンバーが異なる場合は
セールナンバー変更届を提出して下さい。

※別々のクラスにおいて、同じセールナンバーを使用する事は可能です。

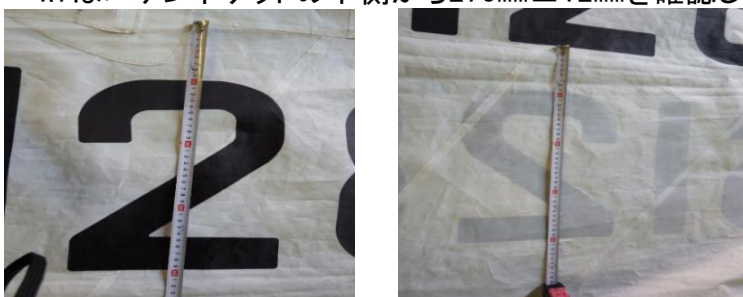
(3)セール番号位置の確認をする場合

まず、スターボードサイドを表にして、ラフスリーブを右側にして置き、

①スタートポイント 100mm±12mm を確認します。



- ②スタンダードは第4パネルの上側のシームから400mm±12mmを確認
ポート側はスターボードの下端から400mm±12mmを確認します。
ラジアルはバテンポケットの下側から400mm±12mmを確認します。
4.7はバテンポケットの下側から270mm±12mmを確認します。



③番号の間50mm以上(4.7では30mm以上)を確認します。



艇体番号の識別(主に4種類あります)



- ①はスターンにPSN1115110682とありますが艇体番号111511です。
②はスターンにPSN136117とありますが艇体番号136117です。
③、④ 6桁の数字で記載されています。



計測項目がすべてOKとなったら、セールにスタンプが押されます。
押す場所はポート側のセールボタン付近です。
※スタンプの印影のそばに年月と計測員のイニシャルを付記します。

②バテンの確認

レーザのバテンには4.7、ラジアル、スタンダード用の従来からのバテンとスタンダードクラスMK II セイル用の2種類のタイプがあります。

- ・従来型では、バテンの両端のキャップに付されたレーザの刻印(①)をそれぞれ確認します。
- ・MK II セイル用スタンダードクラスのタイプのセイルバテンは表面に記載のLaser印字を確認します。

一艇当たり3本のバテンがあり(②)、全部同じように確認します。スタンダードクラスには、マークIとマークIIの異なるセイルがあり、写真の通りバテンも別種類です。長いのが新しいタイプのバテンです。非常に古いバテンには、純正であっても刻印がない場合があります。その場合、**パフォーマンス社に確認の上、正規品の確認後、バテンにサインをもらい再度計測となります。**

※バテンキャップが壊れてる場合も散見されます。壊れたキャップは使用できません。

※バテンキャップの周囲にテープを巻いてる場合(③)があります。バテンをバテンポケットから抜く時に引っかからないようにしているものならOKです。



③マスト抜け止めの確認



・抜けどめをつける目的は完沈してもマストが抜けないようにすることです。
※完沈してマストが抜けかかっている艇を起こすときにマスト底部がマストホルの内壁を壊す恐れがありますので、艇が完沈してもマストが**最大でも5cm程度**で抜けかかったところととまるよう調整して下さい。

※長すぎるのは違反ではありませんが180°以上回転できるほどの緩さがないとブロックブレードに大きな負担がかかります。

④センターケーステープの確認



・大きさ(一辺が3cm以下の四方形)厚さ(2mm以下)の一層シールであるかを確認します。

※センターボードの曲面に合わせるための切り込みはOK。

※貼り付け個所は、写真のような一か所だけになります。

また実際には接着層があるので2層になりますがこれはOKです。

※このテープはセンターケースの前面内側上端がこすれて、穴が開くのを防ぐための部材です。

※センターボードがひとりでに上下する物を抑えるものではありません。この点を誤解している選手が多いので注意してください。

***センターボードケース内への貼り付けは一切認められておりません！(例:敷居すべり)**

⑤バウラインの確認

ロープ直径が6mmで長さ5m以上であることを確認します。

長さ以外にバウアイに一端が結ばれているかも確認します。



※なおこの項は公告か帆走指示書でバウラインの設置を規定している場合のみ適用されます。

⑥⑦センター・ラダーの確認

浮彫(レリーフ)が入ってる場合がありますが、これだけでは違反です。

純正シールは年代によって色が違う場合がありますが、これは問題ありません。

ラダーはラダーヘッド(①)とブレード(②)は別部品なのでそれぞれにシールまたは刻印がなければなりません。ラダー、センター(③)とも先端がとがっていてかけやすいので計測員はできるだけラダーやセンターにはさわらず、選手に自分でラダーやセンターを持ち上げさせて計測員に向かってシールを見せるよう指示します。

※シール、刻印とも無い場合は、パフォーマンス社に確認を依頼し、適合した場合にはシールを

貼ってもらってから再度計測に持ってくるようにしてください。

①



②



③



④

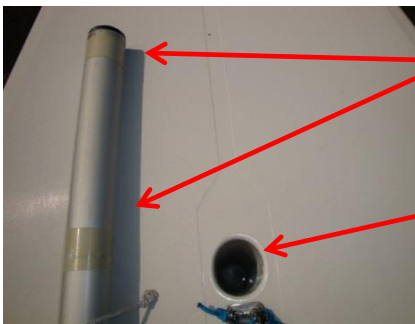


①②③は現行、④は旧式のシール

⑧マストホールの確認

マストホール内部とデッキ周辺を確認します。

マストステップの磨耗を防ぐため貼り付けられたチューブ、カラーも同時に確認します。



マストステップの磨耗を防ぐため、1mm未満の均一な厚さのチューブやカラーを1個、ボトムマストまたはマストホール全周にわたってとりつけてよい。このチューブまたはデッキレベルから10mmよりも上に出てはならない。または、1mm未満の均一な厚さの円板を1枚マストホールの底にとりつけてよい。(クラス規則第3章19.マスト)
→つまりそれ以外はだめ！

* 以上の他のチェックポイント

以上の他にもルール上チェックすべきポイントが多くあります。以下にそれらのうち若干を記載しますがルールブックを参照してもわからない場合は判断を保留して公式計測員に問い合わせてください。

- ・ルール上純正品が指定される部品に使用されてるか。
- ・製造時の基本的な形状、特性、機能に影響を与えるような補修やメンテナンスをしてないか。
- ・シートの取り回し方。
- ・カニンガム、ブームバング、アウトホールのコントロールシステムに「オプションの」ブロックの使用が許可されているが、そのシーブの直径は15mm未満であってはならず、かつ30mmを超えてはならない。(クラス規則第2章3.コントロールシステム、コントロールラインと艀装品)
- ・ハイキングストラップ周辺の構造

* 注意事項

・スパー、フォイル(ラダーヘッド)等には純正パーツを証明するステッカーが必要です！ステッカーがついていない場合、事前に現物をPSJ(パフォーマンスセイルクラフトジャパン)にて確認され、正規品か否かの判断を受けてください。